



## IPPNW(核戦争防止国際医師会議)コーナー

# 核不拡散・核軍縮国際委員会と NGOとの意見交換会

J P P N W事務総長 片岡 勝子

核不拡散・核軍縮国際委員会 (ICNND) 第4回会合 (最終会合) は、2009年10月18-20日の3日間、リーガロイヤルホテル広島で開催された。これに先立つ17日、同ホテルにてICNNDメンバー及び諮問委員とICNND-日本NGO連絡会の意見交換会が開催された。ICNND側からは川口順子及びギャレス・エヴァンス両共同議長 (日、豪)、米国のペリー元国防長官、ロシア、中国、ノルウェー、南アフリカ、フランス、インド、ドイツ、インドネシア、メキシコからの各委員に加えて10名のICNND諮問委員 (日本からは阿部信康元軍縮担当国連事務次長) が参加した。NGO側からは、日本連絡会メンバーのみならず、ICNND-NGOアドバイザーのティルマン・ラフ (IPPNWオーストラリア支部長、ICAN代表)・川崎 哲 (ピースボート共同代表) 両氏、秋葉忠利広島市長、田上富久長崎市長、レベッカ・ジョンソン英国アクロニム研究所長ら約40名が参加した。

### 秋葉・田上両市長の挨拶

ラウンドテーブルは川崎・ラフ両氏の司会で始められた。まず、秋葉忠利広島市長が挨拶し、平和市長会議に134カ国・地域の3,147都市が参加していること、オバマ大統領がノーベル平和賞を受賞して2012年までに核弾頭数を半減して5,000発にすると発言したこと、全米市長会議が6月に全会一致で採択した「2010年のNPT再検討会議において、2020年までに核兵器を廃絶するための国際合意についての多国間交渉を開始することを発表するよう要請する決議」にオバマ大統領が応えて2010年のNPT再検討会議で要請してくれる蓋然性が高まったことを紹介し、平和市長会議の示した「ヒロシマ・ナガサキ議定書」のロードマップよりも世界の動きはむしろ早まっているとの認識を述べた。そして核兵器のない世界の始まりを2020年の「広島・長崎オリンピック開催」で祝いたいと述べた。

これに続ける形で田上富久長崎市長が、ICNNDの報告書に関する一部の予測報道 (核兵器保有国による核兵器先制不使用宣言を2025年までに達成) が事実であれば、安全保障における核兵器の役割の低下から核兵器廃絶に至る道を長引かせ、「生きている間に核兵器のない世界の実現を」という被爆者の切なる願いを踏みにじるものであると憂慮していることを表明した。また、9月24日、オバマ大統領が主宰した国連

安全保障理事会の首脳級特別会合において「核なき世界」決議が採択されたことがノーベル平和賞の受賞につながったと述べ、非核兵器地帯創設の提言や、核兵器廃絶の具体的な期限を報告書に盛り込んでいただきたいと要請した。

### NGOの指定発言

指定発言としてジョンソン氏は、2000年NPT再検討会議で合意された13項目<sup>\*1</sup>の実際の措置の早急な実施、核兵器先制不使用の早期の宣言、核兵器禁止条約に向けての早急な交渉の開始とその下での包括的核実験禁止条約 (CTBT) の発効及び核分裂性物質生産禁止条約 (FMCT) の交渉、北東アジア非核兵器地帯の創設などの重要性をあげ、ICNNDの提言は各国政府より一歩先んじて政治的な決断を引っ張ってほしいと要請した。また、委員会名は核不拡散・核軍縮の順になっているが、より重要なのは全面的で完全な核軍縮であると述べた。

ICNND日本NGO連絡会共同代表の内藤雅義弁護士は、委員会への要望として①委員会を「最後の踊り場」(核廃絶に向けて、世界の核兵器数を最小限とする段階)ではなく、期限を区切った核兵器の廃絶に、②核兵器禁止条約の交渉開始を、③核兵器の役割の限定・縮小から、核兵器の使用禁止と核兵器によらない

安全保障を、④核燃料サイクルの見直しと代替エネルギーの開発を、⑤市民社会の役割の5項目についての発言を用意していたが、和文・英文のプリントを配布することにより省略した。そして、ICNNDは「2012年までに核兵器の役割を抑止に限定し、2025年までに全ての国が核兵器先制不使用を宣言する」という報告書を出す模様であるという共同通信の17日付報道を紹介し、これが事実なら「被爆者が生きているうちに核兵器廃絶を」という被爆者・NGO・市民の願いを踏みにじるものであり、ICNNDは「核兵器なき世界」の実現に向けて国際政治を引っ張って行ってほしいと強く要請した。

### ICNND委員からの意見

これらの問題提起に対し、エヴァンス共同議長は「どのような報告書を出すかは、明日以降の話し合いで決まることである。核兵器禁止条約の必要性を始めとするNGOの意見は、ICNNDも共有している。ICNNDは理想主義的な報告書を出そうとしているのではない。現実主義・政治的プラグマティズムに立った提案でなければ国際政治をリードできるものとはならない。」などと述べた。また、各委員のネームプレートが小さくて発言者の特定が困難であったが、「核兵器廃絶に向かって政治的意志決定にチェンジを起こすのは、ICNNDの報告書ではなく、市民の声である」、「オバマ大統領の発言の多くは米国の安全保障に関するものであり、国際的な安全保障とは区別しなければならない」、「ICNNDの目標はNGOの皆様と同じであり、ICNNDの信義を疑わないでほしい」、「中国、日本、韓国は共同して働くべきである」(王中国元国連大使の発言)など、エヴァンス共同議長が実質的に司会の役を果たしながら、ICNND側から活発な発言があった。一方、核兵器禁止条約に関しては、「現状では難しい」など消極的発言にとどまり、報告書に記載されるかどうかに関するコメントもなかった。



ICNND委員、中央が川口・エヴァンス両共同議長

また、委員会における個別意見はいっさい明らかにされず、これまでの議論の経過も分からなかった。

ICNNDの第3回会合(モスクワ)にもラフ、川崎両NGOアドバイザーや秋葉市長が出席して意見を述べたが、その時にはICNND委員側からは何の質問もコメントもなかったので、今回もNGO側出席者からの意見表明の時間が取れるであろうという事前の予想は見事に覆され、せっかくの機会に指定発言以外の意見を述べる時間がほとんどなかったのは残念だった。

### NGOの記者会見

むしろICNND委員が参加しなかった記者会見で、NGO側が追加発言することができた。主な発言は次のようであった。

ジョンソン氏：ICNND委員は、NGOは理想主義、ICNNDは現実主義・プラグマティズムに立っていると対立的に捉えているが、どういう立場に立ってしようと、物事を進める情熱は理想主義から生まれる。また、NGO側は十分に現実的でプラグマティックな提言をしている。ICNNDはNGOが核廃絶のツールとして使うことができるような報告書を出してほしい。

内藤氏：オバマ大統領の日本訪問に間に合うように、新しく民主党政権となった日本政府に対し、旧来の自民党路線を踏襲するのではなく、世界の核兵器廃絶に向けてリーダーシップをとるような政策をとるよう働きかける必要がある。実際、岡田克也外相はかねてから「核兵器の先制不使用宣言」について、たびたび言及している。

田上長崎市市長：核兵器廃絶に向けて国際政治の現実をリードするような報告書を作成することは、ICNNDの使命である。

ジョンソン氏：ICNNDは、核兵器の役割の低減と核兵器の数量の削減という両面から、



NGO出席者(記者会見)、左から一人置いて、ラフ、川崎、田上、田中熙巳(被団協事務局長)、内藤の各氏

核兵器なき世界を達成する具体策となるような報告書を出してほしい。現在の核抑止論に立てば、STARTプラス (START後継条約など、現在、考えられている核兵器削減) 以上の核兵器削減は難しい。核兵器の先制不使用が1-2年のうちに宣言されれば、核抑止ドクトリンに大きな影響を与え、核兵器の数量の大幅な削減とともに、核不拡散にも役割を果たせるであろう。

### 意見交換会以後の動き

ICNND委員と諮問委員は、平和公園・平和記念資料館の見学、高橋昭博元平和記念資料館長による被爆証言の聴取、旧市民球場で小学生の親子など市民約1,000名がつくった「2020」(平和市長会議が提唱する核兵器廃絶目標年)の人文字の見学などを行った。夕刻に原爆ドーム前を通りかかった時、NGO・市民グループがキャンドル・メッセージとしてドーム前に“NUCLEAR FREE NOW!”の文字をローソクの火で浮かび上がらせる作業をしているのを見てバスから降り、ローソクを並べる作業に参加するという、予定外の行動もあった。

ICNNDの会合は10月18日から20日までクローズドで開催された。報道によれば、終了後の記者会見では、核兵器国は核兵器の役割を抑止に限定することを2012年までに宣言すること、核兵器国は核の先制不使用を2025年までに宣言すること、核兵器国は核兵器の数を2025年に最低レベルにすることなどが発表されたが、2025年における核兵器数に関する具体的な数値目標も、「核兵器なき世界」の目標を達成すべき年も、核兵器廃絶のための条件・方策・道筋なども示されなかった。

ギャレス・エヴァンス、川口順子両ICNND共同議長による共同声明\*<sup>2</sup>は、①ICNND

報告書は2010年NPT再検討会議に先立つ来年早々に発表して、NPT再検討会議に向けて国際的コンセンサスを得るのに役立てたいこと、②核兵器廃絶に向けて、核兵器数を削減する方策として3期の行動計画、すなわち、最初のベンチマークとしての2012年までの短期計画、最小化時点としての2025年まで中期計画、2025年以降の核兵器ゼロに至る長期計画を勧告すると述べているが、具体的事項には触れていない。

来年早々に提出されようとする報告書の内容が両共同議長の記者会見で発表されたレベルにとどまるとすれば、これまでの川口共同議長との会見で得た感触やエヴァンス共同議長の発言の報道から大幅に後退したものになりそうである。特に米国の核体制見直し(NPR)やロシアの軍事ドクトリンの見直しが進行中であること、5月にNPT再検討会議が開催されることを考えれば、今後の核兵器廃絶に向かう動きをむしろ遅らせる危惧さえ与えるものである。現実の政策決定者ではない「賢人たち」が個人の資格で参加しながら、各国の実情や思惑を慮って「現実的に、プラグマティックに、実現性があるものに」とこだわった結果、宣言はされていないものの核兵器国の政策決定者の脳裏にあると考えられる「核兵器の役割を抑止に限定する(中核的抑止)」宣言すらも2012年までに引き延ばしてしまった。さらに米国の核戦略にかかわった元高官4人が核兵器廃絶を訴えた論文\*<sup>3</sup>に始まり、オバマ大統領の登場と言動\*<sup>3</sup>及びノーベル平和賞受賞などに代表される核兵器廃絶の機をのがさずに利用し、核兵器廃絶への道筋をつけるために政治をリードしようという現実的視点が感じられないのは残念である。

正式なICNND報告書の内容を待つ間にも、私たちは報告書を超えて核廃絶が早期に達成されるように取り組まなければならないとの思いを新たにしている。

註:

- \* 1 広島県医師会速報第2033号 (2008年12月25日)  
[http://www.hiroshima.med.or.jp/kenisikai/sokuhou/2008/1225/2033\\_053.pdf](http://www.hiroshima.med.or.jp/kenisikai/sokuhou/2008/1225/2033_053.pdf) 付2
- \* 2 [http://www.icnnd.org/releases/091020\\_js\\_evans\\_kawaguchi.html](http://www.icnnd.org/releases/091020_js_evans_kawaguchi.html) (英文のみ)
- \* 3 広島県医師会速報第2064号 (2009年11月5日)  
[http://www.hiroshima.med.or.jp/kenisikai/sokuhou/2009/1105/2064\\_068.pdf](http://www.hiroshima.med.or.jp/kenisikai/sokuhou/2009/1105/2064_068.pdf)



10月17日、原爆ドーム前のキャンドル・メッセージ。写真はICNND-日本NGO連絡会広島実行委員会(HANWA)の田室武勝氏提供。

## ジョン・ルース駐日アメリカ大使からの書簡

J P P N Wはオバマ大統領のノーベル平和賞受賞の祝辞、および10月4日のルース大使広島訪問に対するお礼の書簡をルース駐日アメリカ大使に送付しましたところ、その書簡に対する返礼が届きましたので和訳して下記にご紹介します。



AMBASSADOR OF  
THE UNITED STATES OF AMERICA  
TOKYO

November 10, 2009

Dr. Shizuteru Usui  
Dr. Katsuko Kataoka  
Japanese Physicians for the Prevention of Nuclear War  
c/o Hiroshima Prefectural Medical Association  
1-1-1 Kannon Honmachi, Nichi-ku  
Hiroshima 733

Dear Dr. Usui and Dr. Kataoka:

Thank you for taking the time to extend your congratulations to President Obama on receiving the 2009 Nobel Peace Prize, and to express your appreciation for my visit last month to Hiroshima. My family and I were deeply moved by our experience there.

As President Obama said in his speech in Prague earlier this year, the United States is committed to seeking the peace and security of a world without nuclear weapons. I hope our two countries will continue to work closely together to realize the right of all people to live in a world free of the fear of nuclear weapons.

Please be assured that I will convey my experience in Hiroshima to President Obama. As physicians, you understand more than most people the long-term health effects of radiation exposure. Your organization's determination to be a leader in efforts to achieve a world free of nuclear weapons is to be applauded. I commend you and the citizens of Hiroshima for your dedication to a better future.

Sincerely,

John V. Roos

2009年11月10日

親愛なる碓井先生並びに片岡先生

オバマ大統領の2009年ノーベル平和賞受賞のお祝い、並びに先月の私の広島訪問に対するお礼の言葉をいただきありがとうございました。私も家族も広島での経験に強く心が動かされました。

今春オバマ大統領がプラハでの演説で述べましたように、米国は核兵器のない世界の平和と安全を誠心誠意求めています。全ての人々が核兵器の脅威のない世界に住む権利を実現させるために、米国と日本が共に緊密な協力を続けていきたいと思っています。

広島での私の経験をオバマ大統領に必ずお伝えいたします。医師である皆様は放射線被曝の健康への長期的影響をだれよりも理解しておられます。核兵器のない世界を達成するうえで、J P P N Wの皆様がリーダーたらんと決意されておられることは称えられるべきことです。私はJ P P N Wと広島市民の方々のより良い未来に対する献身的なご努力を高く評価しております。

敬 具

ジョン V・ルース